

## イベント参加高校・塾・予備校・企業 ほか

### 高等学校

#### 【北海道】

旭川明成高等学校

#### 【福島県】

尚志高等学校

#### 【茨城県】

聖ウルスラ学院英智高等学校

茨城県立土浦湖北高等学校

茨城県立土浦第二高等学校

開智望中等教育学校

#### 【栃木県】

宇都宮文星女子高等学校

栃木県立小山高等学校

#### 【群馬県】

ぐんま国際アカデミー中等部・高等部

高崎健康福祉大学高崎高等学校

常磐高等学校

#### 【埼玉県】

浦和学院高等学校

浦和実業学園高等学校

川越市立川越高等学校

昌平中学校・高等学校

創学舎高等学校

東京農業大学第三高等学校

獨協埼玉中学高等学校

#### 【東京都】

郁文館高等学校

英明フロンティア中学校・高等学校

N高等学校・S高等学校・R高等学校

大妻中野中学校・高等学校

北豊島中学校・高等学校

小石川淑徳学園中学校高等学校

佼成学園女子中学校高等学校

駒込中学校・高等学校

桜丘中学・高等学校

実践女子学園高等学校

女子聖学院中学高等学校

品川翔英中学校高等学校

下北沢成徳高等学校

自由ヶ丘学園高等学校

城北中学校・高等学校

白梅学園高等学校

正則学園高等学校

創価高等学校

拓殖大学第一高等学校

立川女子高等学校

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

東京電機大学中学校・高等学校

東京都立大山高等学校

東京都立国際高等学校

東京都立小台橋高等学校

東京都立上水高等学校

東京都立昭和高等学校

東京都立新宿山吹高等学校

東京都立杉並工科高等学校

東京都立墨田工科高等学校

東京都立日本橋高等学校

東京都立東久留米総合高等学校

東京都立南平高等学校

東京都立武蔵丘高等学校

東京都立雪谷高等学校

豊島学院高等学校

日本大学第二高等学校

普連士学園中学校・高等学校

文京学院大学女子中学校高等学校

文教大学付属中学高等学校

本郷中学校・高等学校

明法中学・高等学校

和洋九段女子中学校高等学校

#### 【神奈川県】

教育アカデミー高等部

秀英高等学校

湘南学院高等学校

湘南学園中学校高等学校

桐光学園中学校・高等学校

白鵬女子高等学校

森村学園 中等部・高等部

横浜清風高等学校

横浜隼人中学・高等学校

#### 【千葉県】

敬愛学園高等学校

西武台千葉高等学校

千葉県立市川東高等学校

千葉県立木更津高等学校

千葉県立千葉東高等学校

千葉県立長生高等学校校

千葉県立流山おおたかの森高等学校

千葉県立成東高等学校

千葉県立松戸南高等学校

千葉県立松戸高等学校

千葉商科大学付属高等学校

中央学院高等学校

#### 【山梨県】

山梨県立富士北稜高等学校

#### 【新潟県】

開志創造高等学校

新発田中央高等学校

#### 【静岡県】

御殿場西高等学校

静岡県立富士宮西高等学校

沼津市立沼津高等学校・中等部

#### 【長野県】

長野県野沢南高等学校

#### 【石川県】

金沢学院大学附属中学校・高等学校

#### 【大阪府】

早稲田大阪高等学校

#### 【京都府】

京都芸術大学附属高等学校

#### 【香川県】

香川県立高松工芸高等学校

#### 【島根県】

明誠高等学校

### 塾・予備校・企業・団体

atama plus

朝日新聞社東京本社

イード

英才予備校伸学院

SEL

エスエイティーター

エデュケーショナルネットワーク

おおたかの森進学塾

学校法人河合塾

株式会社EQAO

株式会社城南進学研究社

株式会社ボータリズム

株式会社八十楽舎

河合塾マナビス青葉台校

我究館

学校法人角川ドワンゴ学園

学校法人高宮学園代々木ゼミナール

教育メディア「ReseMom/ReseEd」編集部

教育出版株式会社

公益社団法人日本獣医師会

行知学園

個別指導Axis亀戸校

個別指導アクシス東村山校

私塾ネット

状況塾

進研アド

スクールIE

スクールIE西荻窪校

駿河台学園

駿台エスエイティーター

駿台予備学校

西北出版株式会社

体育進学センター

大学受験数理塾

大学通信

武田塾

多摩地区高等学校進路指導協議会

展覧堂

東京ガイダンス

東京個別指導学院

東進衛星予備校 上尾駅前校

東進衛星予備校 流山おおたかの森校

トモノカイ

トライグループ

トライプラス

トライプラス鎌ヶ谷駅前校

トライプラス朝日末広校

日能研

日本中医師会

文理学院

ベネッセコーポレーション

誉田進学塾

毎日新聞社

明光義塾

明光義塾佐野教室

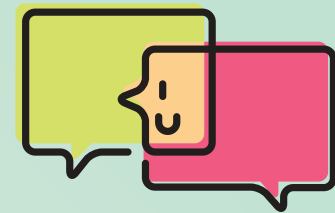
ライセンスアカデミー

YZコンサルティング(ITTO個別指導学院)

早稲田学習研究会

早稲田予備校

学びをつなぐ 総合会議



# 2026年 高大接続総会 実施報告書

東京会場

2026年  
5月26日(火)  
13:00~18:00  
ベルサール秋葉原

来場者数 215名 ● 高等学校教員:128名 ● 塾・予備校:54名 ● その他団体企業:31名 ● 大学:2名

### 大学スース出展大学

亜細亜大学

跡見学園女子大学

桜美林大学

開志専門職大学

神奈川大学

神奈川工科大学

金沢工業大学

鎌倉女子大学

関西大学

関西学院大学

関東学院大学

京都外国語大学

京都先端科学大学

共立女子大学

コー・イノベーション大学

國學院大學

国士舘大学

駒澤大学

駒沢女子大学

産業能率大学

実践女子大学

芝浦工業大学

淑徳大学

順天堂大学

成蹊大学

成城大学

大正大学

拓殖大学

玉川大学

千葉工業大学

千葉商科大学

中央大学

東海大学

東京家政大学

東京工科大学

東京工芸大学

東京情報デザイン専門職大学

東京農業大学

東京理科大学

東洋大学

城西大学

日本工業大学

日本大学

日本栄養大学

日本女子大学

広島県公立大学法人叡啓大学

法政大学

武蔵大学

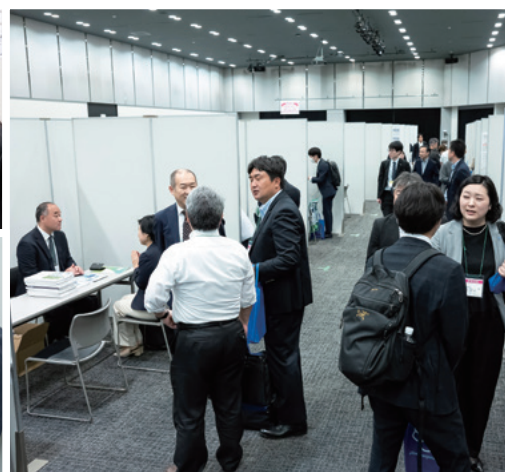
山陽小野田市立

山口東京理科大学

横浜市立大学

立教大学 (資料参加)

麗澤大学



## これからなにが起きるのか。 変化を読み解くヒントを見つけてください。

東京、大阪、福岡。みなさまのお力添えで、今年も3つの接続総会を終えることができました。会場の様子を眺め、来場者のみなさま、出展大学のみなさま、それぞれ「接続総会の参加の仕方」が多様になっていると感じました。プレゼンコーナーで「わかべんクリニック」で「おしゃべりプラザ」で、そして各大学の出展ブースで、「高大」だけではなく、さまざまなひとが縦横無尽に「接続」していったようです。コロナ禍以降、世界は驚くほど姿を変え、求められる教育も一変しました。これからなにが起きるのか、どのように変化を乗り越えていったら良いのか。ひととひとがつながり、語り合うことがなければ、答えは決して見つかりません。接続総会を、その機会のひとつに。来年、また接続総会でお会いしましょう。

アロー教育総合研究所 所長 田嶋 裕



モデレーターを務めた中根氏は、複雑化する時代において、新しい学び（知識・技能の習得だけではない、主体的・対話的で深い学び）が求められていることに言及。次期学習指導要領においても、この方向性は変わらず、探究的な学びが主軸になるだろうと述べ、リベラルアーツ教育を実践する3大学を代表する各氏に、リベラルアーツを学ぶ意義や各大学の教育の特色について問いかけた。

国際基督教大学（ICU）での長年の指導と山梨英和中高での校長としての視点をもつ森島氏は、中等教育からの探究学習の重要性を指摘。ICUでの経験から、日本の学生は海外の学生に比べ、自分の意見を論理的にまとめ、発言・発信する力が控えめであると感じており、大学4年間だけではこうした力を養いきれないと述べた。また、ICUでは日本人と海外からの留学生が共に学んでおり、多様な背景をもつ学生が混じり合い、対話やグループワークを通じて刺激し学び合う環境に、教育の特色があるとした。加えて、互いを受容して学ぶ力や習慣を身につけたうえで大学に入学することが大切だと述べ、探究学習の進め方とともに臨む姿勢を身につけることの重要性を強調した。

国際教養大学（AIU）の工藤氏は、「リベラルアーツ＝多様性の高い学

### オープニングスペシャルプログラム

## 探究のその先へ。大学で開花する『リベラルアーツ』という未来

国際教養大学 国際教養学部  
グローバル・スタディズ領域准教授  
工藤 尚悟様

山梨英和中学・高等学校 校長／  
国際基督教大学 特任教授  
森島 泰則様

広島県公立大学法人叡啓大学  
ソーシャルデザインセンター長 教授  
早田 吉伸様

《モデレーター》  
芝浦工業大学柏中学高等学校 校長  
毎日新聞客員編集委員  
中根 正義様

び」であるとし、一つの事象に対し複数の視点や考え方があることを知るのが出発点であり、相手の言葉で話す「対話」を重視しているとした。また、AIUの教育の特色として、秋田というローカルな現場からグローバルな問題を捉える視点を挙げ、世界の中での自らの立ち位置を理解し、社会課題に貢献できる行動力を重視しているとした。具体的には、24時間365日開館している図書館や、異なる背景をもつ学生が特定のテーマで共同生活を送り、正解のない問いについて徹底的に議論する「テーマ別ハウス」の取り組みなどを紹介した。

叡啓大学の早田氏は、AIをはじめとしたテクノロジーの進化により従来の仕事が消滅する未来に言及。単一の専門性ではなく「知の統合」によって新たな価値を創造する力が必要であるとし、そのためにはリベラルアーツが重要であると訴えた。同大では広島県全域をキャンパスと見なし、学生がフィールドに出て自ら「問い」を立てることを重視。徹底した学生主体のアクティブラーニングを実践し、現場の課題を構造化して解決策を検証する経験を学生に積ませているとした。最後に、入学者に求める要素として、社会に対して「これをやりたい」という強い好奇心と主体性を挙げた。

### 大学プレゼン 宮崎緑学長と進める大学改革

千葉商科大学では、2025年度に宮崎緑氏が学長に就任したことを機に、「未来はもっと面白くできる」をキャッチフレーズに、多角的な大学改革を進めている。組織面では、学長や上層部が独断的に決めるのではなく、若手・中堅教職員による「未来会議」を通じて、2025年度からの全学改組を決定。これにより従来の5学部を4学部へと再編し、全学共通の基盤教育科目や、1年次必修で自らの未来のビジョンを構想する「自分未来ゼミ」などが新設した。加えて、「学生ファースト」を徹底。例えば、学生が学長に直接要望を伝える場「学生トークイン」を設け、彼ら自身が経営する「学生ベンチャー食堂」における使い捨て容器の廃止など、自らの提案を迅速に行動に移している。さらに、地方出身学生への最大年2回の帰省費用補助など、学生の満足度を高める独自の支援も行っている。

また、入試の面では、データ分析を強化。高校時代の評定平均や活動状況が大学入学後の成績や意欲と強い相関をもつというデータに基づき、一般選抜においても調査書を点数化（配点40点）して評価する仕組みを導入している。さらに、「入学してよかったと一生思い続けられる大学」を目指し、社会で活躍する卒業生を学内で紹介するなど、卒業後まで見据えた教育環境の構築を推進している。



千葉商科大学  
入学センター 課長  
村上 春香様

### 大学プレゼン 「型破り」は、真剣だからこそ。関西大学で生まれる新しい挑戦

関西大学は、フランス人法学者・ボアソナードの教えを受けた司法官らによって創設された、140年の歴史をもつ総合大学。近年では、ビジネスデータサイエンス学部の開設や、システム理工学部グリーンエレクトロニクス工学科の開設による半導体研究の強化など、時代の先端を行く改革を進めてきた。首都・東京から離れた自由な空気・環境を活かし、新しい領域を切り拓く「型破り」な文化が醸成されており、各界のフロントランナーが多く輩出。フィギュアスケートの高橋大輔氏や作家の西加奈子氏、建築学の専門知識を生かした高いデザイン性と耐久性を両立させるスイーツづくりで知られるパティシエ・小住匡彦氏や、親からの虐待やヤングケアラーの問題に取り組むNPO法人CoCoTELIを在学中に立ち上げた平井登威氏など、自ら道を切り拓き社会で活躍する人材が育っている。また、学びの現場でも、外国語学部の教授が「居酒屋」をフィールドワークの場にして「建前と本音」の使い分け文化を研究するなど、ユニークな研究が行われている。さらに入試の面でも、共通テスト利用入試で8科目型を導入するなど、新たな取り組みをスタート。高校時代には控えめだった生徒が、関西ならではの開放的な空気の中で本来の力を開花させる事例も多く、関東の高校の先生方にもぜひ選択肢として知っていただきたいと考えている。



関西大学  
入試センター 入試広報グループ 課長  
岩崎 波留奈様

### 大学プレゼン AI・データサイエンス教育に文理という区分は必要か？ ― 武蔵大学におけるAI・データサイエンス教育 ―

武蔵大学では「データサイエンス＝理系分野」ではなく、これからの時代を生きるすべての人に必要な基礎的素養であると捉えている。データサイエンスの本質は「データに基づく論理的思考」と「具体的な問題解決の仕組み」であり、単なる統計やプログラミングの技術としてではなく、課題設定から解決までのプロセスとして捉えるべき。データという客観的なエビデンスに基づき意思決定を行うことは、ますます複雑化する今後の社会において必須である。

こうした考えに基づき本学では、具体的な取り組みとして、全学部の学生が基礎を学ぶ「データサイエンス・ベーシック」、より高度なデータサイエンスの学びを提供する「データサイエンス副専攻」を設置。そのうえで本学の強みである少人数制ゼミを活かし、各学部の専門性と結び付けた形で実際のデータを用いた問題解決を実践する。さらに、2027年度からは法制度や倫理面まで扱う「情報社会デザイン専攻」に加えて、ロンドン大学の学位取得が可能な「ビジネスデータサイエンス専攻」も開設する。本学が育てたいのは、既存の社会に役立つ人材でなく、データの力を武器にロジカルに思考し、既存の社会を変える提案ができるイノベーション型の人材。今後も先進的な取り組みを継続し、データサイエンス教育で社会を良くしていきたい。



武蔵大学  
副学長・社会学部教授  
粉川 一郎様

### 大学プレゼン 6年連続志願者数増加の理由と2027年度入試改革 ― 志願者数の推移から見える関西学院大学の強み

関西学院大学は、兵庫県内に3つのキャンパスを構える総合大学。関関同立で唯一の教育学部や建築学部をもつほか、近年は理系教育に注力し、JAXAやNASAと連携した宇宙関連の研究活動を強化するなど、各分野で専門性を深める体制を整えている。教育面では、副専攻により4年間で2つの学部を卒業できる「マルチプル・ディグリー制度」や、日本人学生の派遣者数全国最多（2年連続3度目）を誇る海外留学プログラム、学生の「やってみよう」を支援するアントレプレナー育成プログラム、日本IBMと共同開発したAI活用人材育成プログラムなど、学生の挑戦を後押しする取り組みを多数行っている。

入試においては「一般選抜での入学者比率を50%以上確保」を大学の方針として掲げており、6年連続で志願者数が増加。共通テスト利用入試をリニューアルし、「8科目型」や数学重視の「英数型」の新設、固定科目の減少（高得点採用科目の増加）、安定したボーダーラインなどにより、国公立大の併願者を含め多様な受験生が受けやすい設計となっている。また、一般選抜の「学部個別日程」では傾斜配点型を導入しており、同一の試験問題を用いつつ学部によって科目の配点を変えることで、受験生が自分の得意を活かしやすいよう設計している。試験会場は全国に設置しており、志の高い学生を広く受け入れている。



関西学院大学  
入学センター  
高松 健太様

### 大学プレゼン 開志専門職大学の取り組みについて

開志専門職大学は、経済経営分野を学ぶ事業創造学部、AIやIoTを学ぶ情報学部、アニメ・マンガ学部の3学部を設置する。新潟を拠点に多角的に教育ビジネス等を展開するNSGグループの強固な基盤のもと、開学7年目にして初めて定員充足を達成した。

教育の特色は4点にまとめられる。まず1クラス40名以下の徹底した少人数教育。教職員が学生一人ひとりの状況を把握し、質問・相談しやすい環境を整えている。次に専任教員の半数以上を実務家教員が締める点。理論を研究者教員から学び、実践的活用を実務家教員が指導するという二軸体制が特色である。3点目は授業の3分の1を実習・演習が占める構成で、コミュニケーション能力や主体性、発信力を養っている。4点目は4年間で600時間以上の企業内実習を必修とするカリキュラム。一般的なインターンシップとは異なり、学内で学んだ知識を実際の企業現場で実践する機会となり、学生が自身の適性や志望を見極める場にもなっている。就職実績は全学部で100%を達成。第1期生の就職実績が明らかになって以降、信頼と認知度が上昇している。高大連携にも積極的で、県内外10校と協定を締結。体験授業や探究学習支援、ビジネスアイデアコンテストへの出場支援など、多様な形で高校現場との接点を広げている。



開志専門職大学  
入試広報部長  
村木 伸矢様

## 大学プレゼン 挑戦する工学部! ~英語×国内留学環境で育成する「Street-Smart Global Engineer!」

2020年に工学部を設置した京都先端科学大学。工学部の全講義を英語で実施していることが大きな特色だ。機械・電気電子・情報といった広範な分野を全て英語で学べる工学部は、日本で同大だけである。また工学部の定員800名のうち500名が外国人留学生で、出身の国・地域は73に及ぶ。4月入学の日本人学生と9月入学の留学生が同じ教室で学ぶ環境はまさに「国内留学」。大学全体の留学生比率はすでに25%に達しており、今後35%を超える見込みだ。

教育のスローガンは「Street-Smart Global Engineer」の育成。生成AIが急速に発達する時代において知識を持つだけの「Book-Smart」では不十分であり、実体験を通じて課題を発見・解決できる人材こそが求められるという考えに基づく。その中核を担う「キャップストーンプロジェクト」では、同大と連携する企業の中から50社が現場の課題を提供し、3・4年生が少人数のチームで取り組む。中間・最終発表を経て企業の前でプレゼンするこのプロセスを通じ、学んだ知識を実社会の問題解決に応用する力とともに、コミュニケーション力やチームワークを養う。1年生から参加できる自主プロジェクト「コーナーストーン」では、予算と大学設備を活用して自由にものづくりに挑戦できる。多国籍の仲間と共に学び、文化や価値観の違いを超えて他者と協働する、真のグローバル人材を育てている。



京都先端科学大学  
副学長・入学センター長 工学部教授

田畑 修様

### 講演

## 日本の畜産を支える獣医さんになろう

農林水産省 消費・安全局 畜産安全管理課 獣医療提供戦略班 課長補佐

岩田 啓様

農林水産省で公務員獣医師として畜産物の安全管理業務に従事する岩田氏が、日本の獣医師ならびに畜産物の現状と「産業動物獣医師」の仕事について講演した。冒頭では、獣医師の多様な役割と現状について解説。獣医師は、犬・猫などのペットを診る小動物分野だけでなく、牛・豚・鶏・ミツバチといった家畜を診る産業動物分野、行政における公衆衛生分野、製薬会社での研究開発など幅広い分野で活躍しているものの、国内に約4万人いる獣医師のうち約40%が小動物分野に従事しており、農林水産省が特に確保に力を入れている産業動物分野の獣医師（産業動物獣医師）は年々減少傾向にある実情を紹介した。加えて、近年は獣医系大学・学部における女子学生比率が高まっており、将来的には女性の獣医師のほうが多くなるだろうと述べた。

続いて、日本の畜産物の現状について言及した。畜産分野の産出額は年々増えている一方、農家の戸数は減少し、一戸あたりの育成頭数が増加。鳥インフルエンザやアフリカ豚熱といった家畜の病気の流行が畜産物の生産・供給に大きく影響する事例も紹介した。そのうえで、畜産業は

### 講演

## 入試に直結する文系探究

代々木ゼミナール／Z会東大進学教室／日世教育研究社

犬丸 征一郎様

予備校講師でありながら「対話型・探究型」の歴史（日本史・世界史・歴史総合）の授業を実践する犬丸氏。高校における探究のあり方や、それが大学入試やその後の大学での研究にどうつながるかにについて、アロー教育総合研究所所長・田嶋とのセッションを通して見解を示した。

最初のテーマは、「探究」の定義と大学での「研究」との違い。高校における探究は「自ら問いを立てる訓練」であり、大切なのは成果（新しい視点・見解の提示）よりも「自ら問いを立て論理的に思考するプロセスを経験すること」だとした。一方、大学における研究は、先行研究を精査したうえで学術的な新視点を提示し、学会や論文を通じて学問の世界に寄与することを目的としており、通じるものではあるが似て非なるものであるとした。

続くテーマは、今回のメインである「高校の（文系）探究は入試に直結するか」という問い。歴史においては、何が起きたかという事実だけを教えるのではなく、それらを集合体として見たときに世界がどのように動いてきたのかを、俯瞰的・客観的に捉える「歴史の見方」を伝えることが重要であ



今後もさらに発展していくと予想され、家畜の病気を予防・治療し健康管理する産業動物獣医師の存在が、以前にも増して重要になっているとした。続いて、家畜の検査、診療、手術、ワクチン接種、伝染病の管理、農家の衛生管理、生産効率を高めるための飼料の研究など多岐にわたる産業動物獣医師の業務内容を紹介。公務員獣医師として働きながら博士号の取得や論文投稿ができる環境を整備し、専門性を高めたい人にとって魅力的な職場づくりを進めていることにも言及した。また、産業動物獣医師を増やすための取り組みとして、農林水産省の特設サイトでの情報発信や、小中高生を対象にした啓発活動を行っており、ぜひ高校の先生や生徒にも見てほしいと呼びかけた。さらに、全国に17ある獣医系大学・学部の学費は、特に私立大では高額であるものの、将来特定の都道府県で産業動物獣医師や公務員獣医師として働くことを条件に、学費を給付する修学資金制度を設けていることを紹介。日本の食の安全・安心を最前線を守る産業動物獣医師の仕事について知り、将来の選択肢に加えてほしいと訴えた。



り、そこにこそ探究型の学びの面白さや意義があるとした。加えて、本来は論述答案にはさまざまなパターンがあって良いはずであり、この「歴史の見方」が身につけていることで、昨今の自分で考えて解答を記述・論述させるような入試問題にも対応でき得るし、大学に入ってからの研究にも通じるだろうと述べた。

一方、知識と探究は相反するものではなく、基礎的な知識なくして探究型の学びは成立しないと主張。歴史的事象の背景にある「なぜ・どうして」という論理や必然性を考えることが歴史における探究の本質だが、これを行うためには最低限の知識が不可欠であり、知識と探究は両輪として機能すべきものであると述べた。学校現場からは「教科書が分厚く（履修内容が多すぎ）て、最後まで終わらない」といった声も届くなか、犬丸氏の授業では、教科書の内容を読むのは予習として生徒に任せており、授業ではより抽象度の高い話をしていると紹介した。知識の部分は生徒自身でやってもらい、授業での探究的な学びと両輪で進めていかなければ、難関大入試への対応は容易ではないだろうと述べた。

### 講演

## どうなる情報入試最前線

工学院大学附属中学校・高等学校 校長／電気通信大学 客員教授

中野 由章様

中野氏は、大学入試センターで作問担当を務めた経験をもち、その知見に基づいた情報科目の分析と大学入試における事例について講演した。冒頭では、共通テスト2026年本試験における情報Ⅰの平均点の大幅低下に言及。これを「難化」と見る向きもあるがそうではなく、「考えるまでもなく解けるような易しい問題」が消滅した結果であり、問題自体は良問であったとした。具体的には、画像の重ね合わせを用いた論理演算の問題など、やや難度の高かった問題を例に挙げつつ、論理的な思考力を問うバランスの良い構成・分量であったと評価した。また、共通テストの出題内容については、「高校卒業時に備えておくべき教養のスタンダード」を示すものであると主張。学校ごとに情報の授業に特色はあるべきで、各校が教育内容に濃淡をつけるための標準指標として共通テストの出題内容を参考にすべきであると説いた。また、情報は探究的な学びの核であり、その充実が他教科の学びも大きく深めるとの意見を展開。私立大学でも共通テスト利用型入試で「情報」を選択できる大学が多くあり、情報を学ぶことは高校での学びという観点でも、大学入試という観点でも、どの角度から見ても非常に



意義のあることだと述べた。

続いて、大学の個別入試において、受験科目（選択含む）に「情報」を設ける大学・学部が増えていることに言及。事例として、国公立大学では電気通信大、広島市立大（情報科学部 後期試験）、静岡大（情報学部の一部の学科で「総合」として出題）、私立大学では日本大（文理学部）、京都産業大（理学部、情報理工学部）などの選抜方式を挙げ、具体的に解説した。加えて、新しい取り組みとしてCBTの導入についても触れ、「受験生に実際にコンピューター上でプログラムを組ませ、試行錯誤する過程まで記録・評価する」という電気通信大学が一部の選抜方式で実施しているCBTについて紹介。ペーパーテストでは不可能な思考のプロセスを評価できる画期的な手法であると評価した。最後に中野氏は、「情報」は受験生にとって「選択肢が増えるお得な科目」であり、大学側の意気込みや求める学生像（アドミッション・ポリシー）が色濃く出る科目でもあると述べ、高校の先生方に向けて、挑戦することを生徒に推奨していただきたい、と呼びかけた。

### スペシャルトーク

## 東京大学 金曜講座 VS 倉部史記

東京大学 金曜講座 教授 新井 宗仁様

准教授 永井 久美子様

「進路づくり」の講師／高大共創コーディネーター 倉部 史記様

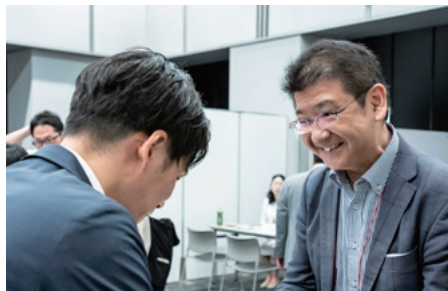
東京大学が開講する「高校生と大学生のための金曜特別講座」（以下、金曜特別講座）の企画・運営を担当する東京大学総合文化研究科の新井宗仁氏および永井久美子氏が、進行役の高大共創コーディネーター・倉部史記氏とともに登壇。倉部氏を進行役に、金曜特別講座の概要や高校生が参加する意義について語り合った。冒頭では、新井氏が以下のように説明した。

本講座は、東京大学大学院総合文化研究科ならびに教養学部が中心となり、毎週金曜日に高校生を主な対象として開講している教育プログラム。2002年の開講以来20年以上の歴史をもち、コロナ前は対面とオンラインで、2020年度からはオンラインのみで、これまでに560回を超える講義を行ってきた。講義は1回完結型で、東京大学の教員が講師となり、自身の専門分野や研究テーマ、キャリア（進路選択のきっかけ）について語る。学問領域は多岐にわたり、人文・社会科学から自然科学まで偏りのないよう配慮している。現在はオンライン配信のみで、受講申し込みは高校を通して受け付けている。大学・高校間の協定締結が必要だが、煩雑な手続きはない。現在、約750校の高校と協定を締結しており、全国の高校から参加がある。受講生は1回あたり500～600名ほどで、多いときには1,000名に上ることも。興味のある回だけの受講も可能で、アーカイブの一部はYouTube（UTokyo Channel）でも公開しており、後から視聴することもできる。YouTube版は社会人の学習教材としても注目を集めており、人気の高いコンテンツには数百万回の再生

数を誇るものも。例えば、小泉悠先生によるロシアにまつわる国際情勢の講義や、宇野重規先生による民主主義についての講義など、社会的な関心の高いテーマの再生回数は非常に多くなっている。

続いて倉部氏が金曜特別講座の意義について尋ねると「高校生の進路選択のための教育」と新井氏。大学での高度な研究内容を高校生にもわかりやすく解説し、学問の面白さを伝えることで、生徒が将来の進路を考える一助となることを目指しているとした。そのため、東大志望者だけを対象としているわけではなく、文理選択に悩む高校1年生や学問に関心のある中学生まで幅広く受け入れており、多くの高校生に受講してほしいと呼びかけた。また、永井氏も、難しいものと敬遠せず、東大受験に消極的な学校や地方の学校の先生や生徒にこそ受講してほしいと付け加えた。これを受けて倉部氏は、生徒が自ら一歩踏み出すのは容易なことではない。高校の先生方にはぜひ、生徒に機会を提供したり背中を押してあげたりしてほしいと呼びかけた。

また、新井氏は、白熱する講義後の質疑応答にも言及。全国からオンラインで参加している高校生が鋭い質問を投げかけ、教員がそれに本気で答える様子は、他の受講生にとっても大きな刺激となるだろうと述べた。さらに、探究学習の題材探しの手段の一つとして活用されるケース、金曜特別講座が進路選択や東大受験のきっかけになったケースもあることを紹介。最後は再び、これを機に高校の先生や生徒により広く知ってほしい、気軽に受講してほしいと呼びかけた。



## どうだった26年度入試、 どうなる27年度入試

元・駿台進学情報事業部長／教育ジャーナリスト

石原 賢一様



2026年度入試では浪人生の志願者数が大幅に増加したのが最大の特徴。特に、新課程入試初年度への不安から慎重姿勢をとっていた二浪生が、卒業証書なしでも出願できる制度変更を機に受験に踏み切ったためとみられる。平均点については国語・英語リスニング・情報・物理などが下落。センター試験時代を含めて4年連続の上昇はこれまで一度もなく、今年はその反動が出た形で、来年は平均点がやや回復すると予測した。内訳では国公立大学の志願者数がわずかに減少。首都圏・関西圏では共通テストの得点が伸び悩んだ受験生が強気の出願を控えた一方、地方国公立大は依然として根強い人気を保っている。難関大では東大の第1段階合格者数が引き続き絞られており、強気の出願が起きにくい状況が続く。一方、一橋大や地方の準難関大では志願者が増加した。

私立大学では、有名大学への集中傾向がさらに鮮明になった。上位層は多様な入試方式を活用しながらMARCH以上の大規模有名大学を目指し、中堅以下の大学では一般選抜の入学比率が3～4割を切るケースも珍しくない。年内入試へのシフトは加速しており、偏差値による序列が実質的に意味

を持つのは大東亜帝国レベルまでという現実を直視すべきだと指摘した。女子大については、生き残る大学と厳しい状況に置かれる大学の色分けが一段と明確になってきたと述べた。系統別では公務員志向による法学部や国際系が堅調な一方、医学部は難化の反動で人気やや落ち着き、歯学部はワークライフバランスへの関心を背景に女子に人気が高まっている。

2027年度入試の展望としては、共通テストの平均点が今年より若干回復し、国公立大への出願がやや増えると予測。私立大では有名大学集中と年内入試シフトの傾向がさらに強まり、三極化が進むとみる。また、文部科学省が年内入試への面接導入を決定したことにも言及。既存大学には2028年入試まで猶予措置が設けられるが、石原氏は「第1段階で学力選抜を行い、通過者にオンライン面接を実施する形になるのではないかと」予測した。全国的には高校・大学ともに面接導入への賛成意見が多数を占めるが、関西の大学では賛成が4割台にとどまるという地域差も紹介した。最後に、国際情勢による経済的影響が地方から首都圏への進学動向に変化をもたらす可能性を指摘し、状況を注視するよう呼びかけた。

## 就活激変！ 学歴フィルターの真実

大学ジャーナリスト

石渡 嶺司様



「学歴フィルター」の本来の意味は、学歴によって給与や昇進に差をつけることだった。しかし2000年代以降、就職情報サイトが普及する中で意味が変容する。企業が求人情報を掲載する際、大学名・偏差値でエントリーをフィルタリングする機能が搭載され、難関大の学生には空席表示が出る一方、偏差値の低い大学の学生には満席表示が出るという運用が広まった。就職氷河期だった2000年代、卒業者に占める就職者の割合は2003年に55.1%まで落ち込み、企業側が選別を強化した背景がある。しかし就職状況はその後大きく変化。2015年以降は売り手市場が続き、2025年卒の就職率は77%とバブル期に迫る水準が11年以上続いている。企業側は今や「採用氷河期」とも言える状況に置かれており、かつて難関大のみを採用していた大企業・中堅企業でも、採用対象を大東亜帝国レベルやそれ以下の大学にまで広げる動きが顕著だ。コンプライアンス意識やSNS世論の高まりも、露骨な学歴フィルターへの抑止力として働いている。

では、現在の学歴フィルターは存在するのか。石渡氏は「半分本当、半分嘘」と表現した。総合商社や外資系など一部の企業では依然として続いて

いるが、大企業・中堅企業の多くでは実質的に緩んでいる。一方で「事実上の学歴フィルター」として機能しているのが適性検査だ。能力検査の非言語分野（数学）は高校数学レベルの知識を要し、大学の偏差値が下がるほどスコアが低くなる傾向がある。企業はこの適性検査を初期選考に導入することで、「大学名ではなく点数で選考した」という建前を保ちながら実質的な絞り込みを行っている。なお、オンライン受験の替え玉行為は企業側も織り込み済みだ。中盤以降に対面での再検査や口頭試問を実施することで不正を見抜く仕組みが整っており、替え玉で選考を突破しようとした学生は結果的に淘汰されている。

石渡氏は、現在の「学歴フィルター神話」を形成しているのは、就職氷河期を経験したインフルエンサーや評論家、高校教員、そして不安を抱える学生自身だと指摘。実態とかけ離れた情報が拡散され、必要以上に学生を追い込む構造が続いている。最後に、文系・理系を問わず高校数学の学習が就活に直結すると強調し、「学歴フィルターの存在を理由に大学を選ぶ意味はかなり薄れてきている」と締めくくった。

## お悩み相談 「わかべんクリニック」

アロー総研の人気企画「若手高校教員向けオンライン勉強会」を会場で実施。「わかべんクリニック」と題し、様々なジャンルのスペシャリストが予備校や高校での豊富な指導実績や、ジャーナリストとしての取材経験に基づく示唆に富んだ“処方箋”が提示されました。



## 探究学習のすゝめ

神田女学園中学校高等学校 教頭 池田 幸代様



池田氏が主導する探究学習では、中1から生徒に意思表示の機会を多く与え、「いいね」「面白いね」といった“ポジティブフィードバック”を重視。考えを否定されない環境で、発言への苦手意識が払拭されるという。中2ではそこで育った自らの意見に、エビデンスとなる理由までをつける力を磨き、中3では新聞記事や論文を読み、データ収集やアンケート調査などを経て動画を制作。高1ではクラス全体での探究からグループ、個人へと段階的に取り組む。高2では論文作成と大学教員向けのプレゼンを行うもの、年間10本程度の小論文を書くものなど多彩な探究科目を配置。高3でも受験勉強と並行して探究学習を行うが、「このマインドが育つと、日々の学習や大学進学に向けて目的意識を持つようになる」と池田氏。学習時間が増え、入試実績の向上にもつながっているという。

## ゼロからはじめる小論文

河合塾小論文科 広川 徹様



広川氏は、まず小論文の問題形式を説明。「課題文読解型」「図表分析型」「テーマ型」が標準型とされ、「英文読解型」や、理数4教科の総合問題である「理科論述型」が加わるという。内容は学部学科の特性に沿ったテーマから、SDGsやAIといった学問分野を横断するテーマ、人生論まで多岐にわたる。これらを全て「読んで考えて書く」という一連の知的作業として行う必要があり、指導では丁寧な解説が重要とのこと。指導を担当する教員向けには、解説資料や解答例、採点基準の作成にAIの活用が提案された。「課題文の解説資料や解答例、採点基準の作成のほか、答案の添削と採点にもAIを利用できます。すべてAIに任せるわけにはいかないため、多少のアレンジも必要ですが、ぜひトライしてみてください」。

## 「プレゼン」「レポート」「ディスカッション」指導のポイント

河合塾小論文科 田本 正子様



プレゼンテーションやレポート提出、グループディスカッションなどを行う入試方式では、「学部学科によって求められる力が違い、評価ポイントも異なる」と田本氏。例えば医学部の入試でディスカッションを行う場合、大切なのは相手を“論破”する力ではなく、周囲の意見をしっかりと聞いて解決策を探る力。どんなに優秀でも医師に不向きと判断されれば不合格になるという。また、学部を問わずプレゼンやレポートで問われるのは、学問への興味と学び続ける力。大事なのは知識量ではなく、モチベーションの高さや、問題意識を持って自分の頭で考える力、論点を整理した上で論拠とともに自分の意見を言える力だという。こうした力を鍛える方法としては、新聞記事の要約や問いを立てる練習、志望学部に応じた入門書の読解が有効だと紹介された。

## 難関大学の総合型選抜攻略法

総合型選抜入試塾専門塾 EQAO代表 玉村 ナオ様



「総合型選抜での志望理由書は、『自分なりに研究・行動をしてきたけれど、限界を迎えたから大学さんを教えてください申請書です』と玉村氏。しかし「好きなこと、やりたいことを書けばいい」との誤解もあると指摘。評価されるのは“好き”を深掘りして生まれた問い。好きや興味を学問的な研究テーマに変換することが指導者の役割だといい、具体的に当事者性のある“血が通った文章”によって、“好き”を学問につなぐストーリーに共感してもらう必要があると力説する。「ボランティアや部活動などの実績を書けばいい」という誤解にも警鐘を鳴らし、学問へのつながりの重要性が繰り返し語られた。また、「この教授のもとで学びたい」というアプローチでマッチングを図る方法も有効なため、その教員の著書に目を通しておく大切さも紹介された。

## 総合型選抜で役立つ 新聞・資料の読み方調べ方

大学ジャーナリスト 石渡 嶺司様



「総合型選抜では志望する分野の入門書や新聞記事を読むことが大切」と話す石渡氏が推奨するのは、高校の図書室や地域の図書館での「レファレンスサービス」の活用。全国の高校で講演を行う石渡氏によれば、生徒がレファレンスサービスを活用できている高校では、進学実績も上がっているという。また、読解力向上や小論文対策には新聞の社説が有効とのこと。社説はテーマの解説をする“事実確認”と、各紙の“主張”とで構成され、入試でも“事実確認”のための要約と、自分の“主張”を述べさせる設問が多く、書き分け方法の習得に有効だという。さらに、新聞では特定の曜日に特定の分野の最新情報が掲載されるために、効率的に情報収集ができると指摘。定期的に大学入試の解説をする新聞もあり、進路指導の教員も読む価値があると語った。

## 参加型・体験型プログラム 「おしゃべりプラザ」

東京会場では今回、参加や体験、対話を軸にした新コーナー「おしゃべりプラザ」を開設。探究授業のミニ体験から、押し寄せる国際化の波と海外進学の最前線の理解まで、先生方が気軽に学び、語り合える場となった。

## ディスカバ!ミニ体験

桜美林大学 入学部ディスカバ!事務局 今村 亮様



同大が運営する高大連携型探究プログラム「ディスカバ!」の担当者と現役大学生2名が登壇し、探究授業のミニ体験ワークを実施した。前半は探究の意義を解説。少子高齢化やITの急速な進化により予測困難な時代が到来しているからこそ、「答えを待つのではなく自ら問いを立てる力」が重要だと指摘した。マインクラフトでデズニールランドを再現した高校生の事例など、ユニークな探究テーマが総合型選抜での合格につながった事例も紹介した。後半のワークでは、「関心のあるキーワード2つ＋疑問詞」で問いを立てる手法を体験。参加者は調べるだけでなく、検証・関心・探究の3軸を満たす問いを設定する重要性を実感した。

## 「海外進学したい」そのとき、どう答えますか？

茗溪学園 校長補佐／教育アナリスト 井上 修様



「2027年問題」として、大学、中高一貫校、インターナショナルスクール、公立等を巻き込んだ国際化の大波が到来する。同年に開校する東北大学ゲートウェイカレッジをはじめ、全授業を英語で行う大学が増加し、国内大学の序列や選び方そのものが変わりつつある。海外進学の手段はIB・Aレベル・AP等が主流だが、ダブルディグリーも含めて国内取得できる環境も急速に整っており、「国内で国際的に学べる」選択肢が増えた。井上氏は海外進学を焦る必要はなく、国内大学から大学院で海外を目指す道も有効だと強調。「何のために行くのか」を子ども自身が整理し、進路を自分ごととして捉えられるかどうかが大切だと結んだ。